

2015年度 近江兄弟社ひかり園 学校評価結果シート

1 近江兄弟社ひかり園の保育・教育目標

・学園訓「地の塩・世の光」の理念のもと、一人ひとりがこの世でなくてはならない存在として生かされていることを知り、世のために尽くす人となるための土台を作ります。
 ・イエス・キリストを模範とする人間教育を通して、「よく見る目、よく聞く耳、よく考える頭、よく働く手足」を育みます。
 ・夢に向かって未来をつくりだす人間となるための基礎を培います。

2 重点的に取り組む目標・計画

(1)遊びから学びの基礎へ、遊びからはたらきへ ～「遊び」を大切にしたい保育(教育)～
 子どもが夢中になっていきいきと遊ぶことは、『生きる力』を育むことに大いにつながります。遊びを通して、工夫したり、悩んだり、納得するまでの繰り返しの中で、思考力や想像力が育ち、意思が確立されます。その意思が、学びの基礎となり、「もっとこんな風に…」という意欲の土台となります。ひかり園では、一人ひとりが抱く好奇心や探究心を大切に受けとめ、『心をうかす保育』に努めます。子どもたちは、保育者や友だちと遊ぶ中で、自分と他者との違いを知っていくことでしょう。たくさんのおつきり合いや、葛藤を通して、悩み、考え、やがて理解し合い、『共に生きる』ことを学んでいきます。認め合い、力を合わせることの楽しさ、喜びを味わうまでの道筋を大切に、保育にあたります。

(2)「食」を大切にしたい保育 ～家庭や地域との連携による食育の推進【食育計画】～
 「生きることは食べる」と言われるように『食べる』という営みは、生きる力の源になります。ひかり園では、第二園庭ふんえもんを中心に、地域の方々の力を借りながら「育てる・収穫する・調理する・食べる」ことを体験します。「収穫する＝与えられる」ことに気づき、『喜んで(感謝して)いただく心』を育てます。地産地消にこだわり、地域で作られている環境こだわり米、地元産の野菜を積極的に取り入れた給食を提供します。

(3)子育て支援の充実
 認定こども園の果たすべき役割である子育て支援において、在園の保護者のみでなく、未就園の子ども達、保護者を対象にした『親子広場(エンジェル広場)』『子育て相談(ほっこりダイヤル)』などを開き、温もりあふれる子育て支援を目指します。また、短時部(1号認定)に在籍する園児を対象とした預かり保育を実施し、幅広い子育て支援に努めます。
 ○預かり保育「ノアの家」(通年:7:00～20:00)
 ○未就園親子子育て広場「エンジェル広場」(月1回開催)
 ○子育て相談「ほっこりダイヤル」(通年)

食と健康	①できるだけ多くの食べものや料理を味わう。 ②自分の体に必要な食品の種類や働きに気づき、栄養バランスを考慮した食事をとろうとする。
食と人間関係	①自分で食事ができること、身近な人と一緒に食べる楽しさを味わう。 ②様々な人々との会食を通して、愛情や信頼感を持つ。 ③食事に必要な基本的習慣や態度を身につける。
食と文化	①いろいろな料理に出会い、発見を楽しんだり、考えたりしながら様々な文化に気づく。 ②地域で培われた食文化を体験し、郷土への関心を持つ。 ③食習慣、マナーを身につける。
いのちの育ちと食	①自然の恵みと働くことの大切さを知り、感謝の気持ちを持って食事を味わう。 ②栽培、飼育、食事などを通して、身近な動植物の存在に親しみをもち、すべてのいのちを大切にすることを心を持つ。
料理と食	①身近な食材を使って、料理を楽しむ。 ②食事の準備から後片付けまで自らかわり、味や盛り付けなどを考えたり、それを生活に取り入れようとする。 ③食事にふさわしい環境を考えて、ゆとりある落ち着いた雰囲気の中で食事をとる。

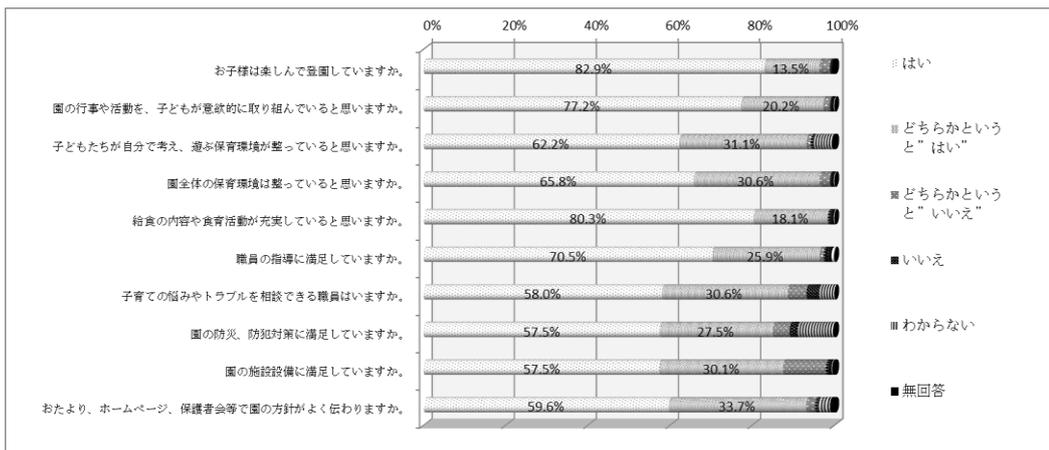
3 評価項目の達成および取り組み状況および今後の課題

評価項目	取り組み状況	今後の課題
こども園要領を軸に保育課程を策定・実践する。また、個々の発達を踏まえ、教職員間の共通理解をはかり保育に取り組む。	・保育課程に基づき、年間および月間指導計画を作り、定期的に評価を行い改訂をはかった。 ・一人一人の子どもの成長記録を児童票に記入し、関係する職員が周知できるように連携している。 ・ケース会議や学年会議を定期的に行うことで、全職員が子どもの様子を把握できるよう努めた。 ・教育の質の向上のために、園内外での研修に参加する機会を積極的に設けた。	・総数50人を超える多数の職員が園児に関わる中で、時差出勤などの事情により園児や保護者に関する報告事項が伝わらないことがあった。 ・会議ノートや引き継ぎノートへの記録内容を整理し、情報共有の周知徹底を心がけていく。ケース会議を持ち、子どもの様子等について共通理解できているが、子どもの姿から見える課題についてじっくりと話し合える時間を持つ必要がある。 ・週ごとの園生活が途切れずつながりのあるものとなるような保育計画をたてる。
子どもが心地よく過ごすことのできる環境を整備する。	・子どもの表情、言動、様子などをよく把握し、安心して過ごせるような配慮を心がけた。 ・それぞれの年齢に応じた環境を室内外に整え、じっくり遊べる環境づくりに努めている。 ・毎日の掃除を十分に行い、汚れた後すぐに消毒、掃除をして子ども達の園生活の場の清潔を維持した。 ・早朝・延長保育への移行に関しては、職員間で子どもの様子をしっかりと伝えて、一日を通して子どもが安心できるように心がけている。 ・園に隣接するウォーリス学園の校地や施設を活用し、散歩や運動の取り組みの場として利用している。 ・園庭、地域の公園や、園内の畑で自然に触れ、親しむ機会を持った。 ・保護者会活動に環境美化作業を取り入れ、園庭の清掃、環境整備に協力していただいた。	・落ち着いた遊びたいときなどに、少しみんなと離れて遊べる空間をつくりたい。 ・子どもの姿(興味・関心)から環境を時期に応じて見直し、具体的に整えていきたい。 ・園舎の構造上、幼児クラスは保育室から廊下に出ると屋外となり廊下は下足・上靴が混在する環境である。安全衛生上できるだけの工夫をし衛生的に良好な状態を保ちたい。 ・乳児棟施設が老朽化している。破損カ所等が生じていないか安全点検に力を入れたい。 ・保育室が夕刻、延長等の部屋になるため、その保育室で朝からお迎えまで過ごす園児への配慮を心がける。 ・保護者の協力を得ながら、遊具の修繕等を実施したが、安全な生活を保持するため、長期的な視野で施設や備品の利用を見直していきたい。
一人一人の子どもへの理解を深め、受容することに努める。	・早朝より登園し、延長保育まで保育が必要な乳児もいた。午前寝をして生活リズムを整えるなどの配慮をした。 ・集団生活の中でも一人一人の言葉に耳を傾け、ゆったりと聞かれるよう努めた。 ・乳児クラスにおいては出来る限り家庭に近い環境を整えている。また、月齢に配慮し、一人一人が落ち着いて生活ができるような雰囲気を作っている。 ・個別支援を必要とする子に対しては、担当者を中心としてクラスや園全体で話し合い、その子に合った援助ができるよう心がけた。また保護者と密に連携	・園児の姿の良いことばかりではなく、成長の遅い子やトラブル(どうやって解決したか、あるいは見守っているところ)を伝えたい。 ・園児の発達に応じた環境構成や適切な援助を行うための「子どもの発達」の学びをおしをし、園として幅広い子どもの個性を受容する保育力を向上したい。 ・こども園の課題であるコアタイムを含む長時間の保育に通じる一貫性を追求するとともに、どの時間帯においても、子ども自身が安心して過ごせる居場所をつくる。

	期ができるよう心がけた。また保護者とも密に連絡を取り合い情報を交換・共有している。	
園の情報を保護者や地域に発信する。また、保護者のニーズの把握につとめ、要望や苦情に適切な対応をはかる。	<ul style="list-style-type: none"> ・園だより、学年だより、クラスだよりなどの配布、ホームページやブログ、掲示板などを活用し、園生活のねらいや、園やクラスでの子どもの様子を伝えた。 ・年度末に保護者アンケートを実施し、保護者を通して園運営への意見を伺った。 	<ul style="list-style-type: none"> ・アンケートに寄せられた様々な意見を環境作りや保育内容充実の園の運営や教育活動をより充実させるための参考としたい。 ・教職員がチェックリストや保護者アンケートの結果を基に自己評価を行い、計画や取り組みを見直し今後の改善と充実につなげる上での基礎資料ができた。 ・保護者も含めて外部の方々の声を聞くことで自己評価に客観性がもてた。これらの評価を職員の次への意欲につなげたい。 ・要望や苦情を受けるのみでなく、必要な対応（環境整備等）をとるための園内協議の場を設置し改善点を整理、具体化したい。
緊急時（事故、感染症の発生時など）の対応など利用者の安全確保のための体制を整備する。	<ul style="list-style-type: none"> ・月1回、避難訓練を行い、職員間で話し合い、連携に努める。 ・園外での安全に留意し、携帯電話の携帯、行き先や時間など明記するように心がけた。 ・危機管理体制やヒヤリハット報告のまとめの冊子等で職員全員の危機管理意識の向上をはかった。 ・事故防止のため、定期的に遊具や施設内の安全点検を行い改善点は改善できるよう努めている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・研修や保健担当者会議で学んだ事を全職員が周知徹底できるようにしていきたい。 ・調理室も衛生管理マニュアルに記載されているが清掃出来ない部分があるので、専門業者や稼働していない時間などで実施出来るように検討していきたい。 ・避難経路の再確認、避難マップの作成をし、単年度ごとに変更点がないかを確認する。 ・園児引き渡し訓練等、未実施の訓練を実施し、災害時の対応力を向上させたい。

4 保護者アンケートの結果 実施日 2016年1月

対象者	回収	回収率
219人	193人	88.00%



5 学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

教職員による自己評価と保護者による学校評価は、昨年と比較し一定向上した結果となった。食育に関する園の取り組みについて、高い評価が出ているが、教育内容やカリキュラムについては、子どもの発達をふまえ、より豊かなものを提供できるよう努めたい。保育者の資質向上、施設的环境整備、認定こども園の課題である「子育て支援」の充実を今後も課題としたい。